



認定番号 0005749

環境経営活動レポート

2022年度実績

(対象期間:2022年10月～2023年9月)



(地域環境活動:一級河川大井川河川美化作業)



(地域環境活動:市道野守循環線排水路清掃作業)

発行日:2023年10月

株式会社 田 崎 組

目 次

環境経営方針	1
事業の概要	2
実施体制	3
短期・中長期環境経営目標(事務所・建設現場)	4・5
環境経営活動計画	6
2022年度環境への負荷実績(事務所・建設現場)	7・8
2022年度環境経営活動計画の実施に対する評価	9
環境関連法規	10～11
2022年度における代表者による全体の評価と見直し・指示	12
参考資料(電気使用量・燃料使用量・CO2排出量年度比較)	13～16

環境経営方針

基本理念

当社は、南アルプスを源とする一級河川大井川の自然と緑豊かな環境の中で土木建設業を営む事業所として、「人と自然がいつまでも共生できる環境づくり」を基本理念とし、事業における環境経営への様々な影響を認識し、社員一丸となって自然環境への負荷の低減に取り組み、地域社会から信頼される企業を目指します。

行動指針

当社は、土木建設事業活動における環境経営への影響を理解し、全社員が自覚と責任を持ち、エコアクション21環境経営システムを構築運用し、以下の環境経営活動に自主的、継続的に取り組んでまいります。

1. 環境関連の法規制を遵守し、環境経営保全に取り組みます。
2. 継続的な環境経営保全活動を推進するため、次のことを実施します。
 - ① 地球温暖化防止、温室効果ガス排出量削減のため省エネルギーを推進します。
 - ② 廃棄物の適正な処理とリサイクル活動を推進します。
 - ③ 事務用品・建設資材等は、環境配慮商品購入品目の増加を目指します。
 - ④ 適正な水使用等の省資源に努め、資源の無駄を抑制します。
 - ⑤ 環境配慮事業を推進します。
3. この環境経営方針を全社員に周知し、環境経営保全の意識を高め、快適な環境づくりを目指します。

2009年11月2日制定
2022年10月1日改定

株式会社 田 崎 組
代表取締役社長 田 崎 和 美

事業の概要

1 事業者名及び代表者

- ・事業者名 株式会社 田 崎 組
- ・代表者名 代表取締役 田 崎 和 美

2 所在地

①事務所（本社）

〒428-0104

静岡県島田市川根町家山602-1

TEL 0547-53-2124 FAX 0547-53-3541

②資材置き場

静岡県島田市川根町家山1206-2

3 環境経営管理責任者 田 崎 弘 幸

（担当者）

田 崎 祐 介（岡田良三）

E-mail : info@tazakigumi.co.jp

4 事業の内容（全組織・全活動取組み）

特定建設業許可

土木工事業、とび・土工工事業、石工事業

（施工管理技士：8名）

鋼構造物工事業、舗装工事業、水道施設工事業

解体工事業

許可番号	県知事許可 特-3 669
許可年月日	令和3年10月7日
有効期限	令和8年10月6日

5 事業の規模

法人設立	1954年1月16日 (昭和29年)	従 業 員 数	12人
資 本 金	2,000万円	事務所床面積	456㎡
売 上 高	15,491万円	建設機械台数	14台
決算期間	期首：10月1日 期末：9月30日	本社敷地面積	617㎡
		資材置場面積	4,249㎡

対象事業所：本社、資材置場



短期・中長期環境経営目標

短期・中長期環境経営目標(2022年度～2024年度)

【事 務 所】

(2022年10月～2023年9月) から (2024年10月～2025年9月)

〈目標設定基準数値は過去3ヵ年を経過したことから見直し2018年～2020年3ヵ年実績平均を基準(100)とする〉
(基準数値は3年ごとに見直す)

(1) 二酸化炭素排出量

年度 項目		2018年度～2020年度 実績平均値(100%)	削減目標		
			2022年度	2023年度	2024年度
総排出量 Kg-CO2		7655.600	7350.560 (-0.4%)	7300.640 (-4.6%)	7250.240 (-5.3%)
購入電力	排出量 Kg-CO2	5013.120	4812.480	4762.560	4712.160
	消費量 kwh	10444	10026 (-4%)	9922 (-5%)	9817 (-6%)
ガソリン	排出量 Kg-CO2	2642.480	2538.080	2538.080	2538.080
	消費量 ℓ	1139	1094 (-3.95%)	1094 (-3.95%)	1094 (-3.95%)

※電力は、減少していることから2019年度・2020年度(2ヵ年)の実績平均値を2021年目標値とし、更なる減量を目標とする。

※電力排出係数は、2019年度より「調整後排出係数」を用い2017年12月21日公表中部電力CO2調整後排出係数(0.480)を適用

※ガソリンは、3ヵ年平均の中で最小の2018年度の1094ℓを目標値とし3ヵ年同数とする。CO2排出量係数:2.32

※灯油及びLPGは少量のため省略

(2) 廃棄物排出量

年度 項目		2018年度～2020年度 実績平均値(100%)	削減目標		
			2022年度	2023年度	2024年度
一般廃棄物 (kg)		89	82 (-8%)	78 (-12%)	75 (-15%)

※一般廃棄物は3ヵ年平均の中の2019年度実績の78kgが最小量であったため2023年度目標値とする。

(3) 総水使用量

年度 項目		2018年度～2020年度 実績平均値(100%)	削減目標		
			2022年度	2023年度	2024年度
水道水 (m ³)		175	107 (-39%)	107 (-39%)	107 (-39%)

※2017年度実績使用量が107m³で過去最低数量であった為、2017年度実績数量を3ヵ年同数目標値とする。

(4) 環境配慮事業で事務所で取組むこと

環境負荷低減のための施工計画の推進、事務用品・備品及び建設資材等のグリーン購入の推進、事業所周辺の地域貢献活動を4件実施を予定する。

短期・中長期環境経営目標(2022年度～2024年度)

【建設現場】

(2022年10月～2023年9月) から (2024年10月～2025年9月)

(目標設定基準数値は過去3ヵ年を経過したことから見直し2018年～2020年3ヵ年実績平均を基準(100)とする)
(基準数値は3年ごとに見直す)

(1) 二酸化炭素排出量

項目 \ 年度		2018年度～2020年度 実績平均値(100%)	削減目標		
			2022年度	2023年度	2024年度
総排出量 Kg-CO2		79884.260	79884.260 (0%)	79884.260 (0%)	79884.260 (0%)
ガソリン	排出量 Kg-CO2	9602.480	9602.480	9602.480	9602.480
	消費量 ℓ	4139	4139 (0%)	4139 (0%)	4139 (0%)
軽油	排出量 Kg-CO2	70281.780	70281.780	70281.780	70281.780
	消費量 ℓ	27241	27241 (0%)	27241 (0%)	27241 (0%)

※ガソリン及び軽油は、工事個所及び工種の内容から毎年異なることから3ヵ年平均数量を目標数量とする。

※現場における電力使用は数年無く、また、灯油使用量も少量のため除外

※CO2排出量係数=ガソリン:2.32/軽油:2.58

(2) 廃棄物排出量

項目 \ 年度		2018年度～2020年度 実績平均値(100%)	削減目標		
			2022年度	2023年度	2024年度
建設副産物	木くず (t)	56	56 (0%)	56 (0%)	56 (0%)
	コンクリート (t)	308	308 (0%)	308 (0%)	308 (0%)
	アスファルト コンクリート (t)	6	6 (0%)	6 (0%)	6 (0%)
	混合廃棄物 (t)	0.9	0.9 (0%)	0.9 (0%)	0.9 (0%)

※建設副産物は、事業内容及び事業量により異なり毎年度数値の変動が見込まれるため、目標は平均値同数とする。

※総水使用量は、車両出入口の道路清掃・洗車等に使用するのみで少量のため除外する。

※混合廃棄物(t)換算=㎡×0.26(換算係数)

(3) 環境配慮事業で建設現場で取組めること

建設現場の事前環境調査(周辺の環境・資機材搬入路等)の実施及び対策、省エネ・省資源型建設機械導入と使用、建設リサイクルの推進

環境経営活動計画

2022年度

活 動 計 画	責任者	実施者
《二酸化炭素排出量（電気・燃料）の削減》		
①電力使用量の削減		
* 冷暖房の管理（エアコン設定温度：夏28℃・冬23℃）	守谷健児	事務職員
* 不要時電源切替えの徹底（事務機器・照明・外出時等）		
②燃料使用量の削減		
* 車両、重機の不必要なアイドリングの禁止	守谷健児 田崎祐介	全職員
* エコドライブ（急発進、急加速の禁止）の励行		
* 車両、重機の整備点検の徹底		
* 同一目的地への相乗りの励行		
《水使用量の削減》		
* 作業現場及び洗車時の河川水・雨水利用の推進	田崎祐介	全職員
* 水道水使用量定期検針及び定期漏水調査の励行	守谷健児	事務職員
《廃棄物排出量の削減及びリサイクルの推進》		
* 缶、ペットボトル、段ボールの分別及びリサイクルの徹底	守谷健児	全職員
* 建設副産物（コンクリート等）の再資源化の促進	田崎祐介	現場責任者
* 資材の再利用の促進		
《グリーン購入の促進》		
* 事務用品、備品等はエコマーク商品購入の増加を目指す	守谷健児	事務職員
* 建設資材はグリーン製品（商品）の使用拡大を目指す	田崎祐介	現場責任者
《元請工事における環境経営目標及び取組評価》		
* 元請工事について環境経営目標行動計画を設定し評価を行う	田崎祐介	現場責任者
《地域環境貢献活動の推進》		
* 事業所・現場周辺及び河川等の清掃実施	守谷健児 田崎祐介	全職員
《環境に配慮する業務及び工事施工》		
環境負荷低減のための施工計画の推進 現場の事前環境調査の実施・対策 省エネ建設機械導入・使用	守谷健児 田崎祐介	事務・現場責任者

※ 全体(事務所+現場)の二酸化炭素総排出量は、60,102.791kg-CO₂です。

2022年度環境への負荷実績

【事 務 所】

(1) 二酸化炭素排出量

項 目	単 位	2022年度目標数値	2022年度実績	目標対比
二酸化炭素	排出量 Kg-CO ₂	7350.560	8327.165	976.605
購入電力	排出量 Kg-CO ₂	4812.480	6351.360	1538.880
	消費量 Kwh	10026	13232	3206
ガソリン	排出量 Kg-CO ₂	2538.080	1975.805	-562.275
	消費量 ℓ	1094	851.64	-242.36

※購入電力排出係数は、2017年12月21日公表中部電力CO₂調整後排出係数0.480を適用

※ガソリン排出量係数2.32

(1) 廃棄物排出量

項 目	単 位	2022年度目標数値	2022年度実績	目標対比
一般廃棄物	kg	82	73.1	-8.9

※引き続き資源ごみ等の分別を行い減量化に努める。

(3) 総水使用量

項 目	単 位	2022年度目標数値	2022年度実績	目標対比
水道水	m ³	107	163	56

※引き続き漏水点検の励行及び無駄な使用をやめ節水に努める。

(4) 環境配慮事業

事務用品・備品及び建設資材等のグリーン製品の購入の推進、事業所周辺の清掃活動の実施及び施工計画書作成時内容を精査し環境負荷の低減に努めた。

2022年度環境への負荷実績

【建設現場】

(1) 二酸化炭素排出量

項 目	単 位	2022年度目標数値	2022年度実績	目標対比
二酸化炭素	排出量 Kg-CO2	79884.260	51775.626	-28108.634
ガソリン	排出量 Kg-CO2	9602.480	8936.222	-666.258
	消費量 ℓ	4139	3851.82	-287.18
軽 油	排出量 Kg-CO2	70281.780	42839.404	-27442.376
	消費量 ℓ	27241	16604.42	-10636.58

※ガソリンは現場が近場であったこと、軽油は重機等使用の頻度が少なかったことがあげられる。

※CO2排出量係数＝ガソリン:2.32/軽油:2.58

(2) 廃棄物排出量

項 目		単 位	2022年度目標数値	2022度実績	目標対比
建設副産物	木くず	t	56	95	39
	コンクリート	t	308	360	52
	アスファルト コンクリート	t	6	48	42
	混合廃棄物	t	0.9	1.17	0.27

※現場における排出量は、受注工事(工種)の内容により実績数値に大きな変動がある。

※不用品は混合廃棄物として処分し、再利用できるものの分別に努める。【混合廃棄物t換算＝ $\text{m}^3 \times 0.26$ (換算係数)】

※水使用量は、少量のため省略

(3) 環境配慮事業

現場周辺の事前環境調査(周辺の環境・資機材搬入路等)の実施、建設リサイクルの適正な処理に努めた。

2022度環境経営活動計画の実施に対する評価

(事務所及び建設現場)

(評価: ○ × △)

項 目	活動計画		評価		コメント	次年度の取組	
			上期	下期		継続・非継続	重点課題
二酸化排出量(電気・燃料の削減)	電力使用量の削減	冷暖房の管理	○	○	夏季28° 冬季23° に設定し共に設定温度で使用、夏季は特に窓を開け外風を取込みエアコン使用頻度をひかえている。	継続	現行の取組を励行
		不要時電源切り替えの徹底	○	○	各自の自覚で励行されている。		
	燃料使用量の徹底	不必要なアイドリングの禁止	○	○	駐停車時のアイドリングストップ、エンジンの空ふかしや加速の取りやめ、また、使用時前の点検及び相乗りが励行されている。		
		エコドライブの励行	○	○			
		車両・重機の整備点検の徹底	○	○			
		同一目的地への相乗りの励行	○	○			
水使用量の削減	作業現場及び洗車時の河川水・雨水利用の促進	○	○	現場内使用及び現場出入口の道路清掃、又、重機・車両の洗車は水道水を控え河川水を利用している。	継続	沢水(農業用水)の利活用	
	水道水使用量定期検針及び定期漏水調査の励行	○	○	月の初日を検針日と定め、検針及びメーター機による漏水調査を行っている。			
廃棄物排出量の削減及びリサイクルの推進	缶、ペットボトル、段ボールの分別及びリサイクルの徹底	○	○	一般廃棄物、缶等は分別し適正に処理している。	継続	法令を遵守し取組を励行	
	建設副産物(コンクリート等)の再資源化の促進	○	○	Asコン、木くずはそれぞれ指定処理業者に運搬し処理された。			
	資材の再利用の促進	○	○	再利用可能な資材は仕分けをし活用している。			
グリーン購入の促進	事務用品、備品等はエコマーク商品の購入の増加を目指す	○	○	コピー用紙等事務用品はエコマーク商品の購入に取り組んでいる。	継続	現行の取組を励行	
	建設資材はグリーン製品(商品)の使用拡大を目指す。	○	○	型枠資材、骨材等はグリーン製品を精査し利用の拡大を図っている。			
元請工事における環境目標及び取組評価	元請工事について環境目標を設定し取組の評価を行う。		○	○	主元請工事について、行動計画を定め結果について取りまとめを行った。	継続	現行の取組を励行
地域環境貢献活動の推進	事務所、現場周辺及び河川等の清掃実施		○	○	計画に基づき活動を実施した。 野守の池横資材置き場草刈り 新代 草刈り	継続	現行の取組を励行
環境配慮事業	環境負荷低減のための施工計画の推進、現場の事前環境調査の実施及び対策、省エネ建設機械の導入・使用		○	○	施工計画時内容を精査し、環境負荷低減に努める。建設機械等は順次省エネ機械に買換えていく	継続	現行の取組を励行

環境関連法規

1. 環境関連法規等の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

確認年月日：2023年10月25日（良・否）

法規制の名称	要求事項	具体的内容	適用条項	遵法評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物の処理	事業者の責任において処理	法第11条第1項	○
	廃棄物の運搬、処分の委託基準	運搬、処分業者との委託契約	施行令第6条の2	○
		契約書の保存期間5年	施行規則第8条の4の3	○
	廃棄物保管基準	掲示板の設置	施行令第6条の5	○
	産業廃棄物管理票	管理票(マニフェスト)の交付、報告(A・B2・D・E票の管理と5年間保存)	法第12条の3	○
建設リサイクル法	分別解体等実施義務対象建設工事の届出等	建築物の解体工事(床面積80㎡以上)工事着手の7日前までに県知事に届出	法第9条 法第10条	○
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	事業者及び消費者の責務	廃棄物の収集、運搬する者は再商品化等する者に適切に引き渡す	法第6条	該当なし
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	事業者の責務 産業廃棄物管理責任者の選任 実地確認	産業廃棄物を自らの責任において処理 産業廃棄物管理責任者の設置 産業廃棄物処理の委託先の実地確認とその記録の保存(5年) (委託先事業所看板・施設等の確認写真及び実施日の記録)	条例第4条 条例第8条 条例第10条 規則第4条第4項 規則第5条第3項	○
騒音規制法	特定建設作業の届出	作業開始7日前迄に市長に届出	法第14条	該当なし
振動規制法				
資源の有効な利用の促進に関する法律	事業者の責務	OA機器廃棄に伴う再生資源利用 再生資源の利用	法第4条	該当なし
	利用計画の作成・記録	利用計画・記録の保存(1年間)	再生資源利用判断基準 省令第8条	該当なし
地球温暖化対策の推進に関する法律	事業者の責務	温室効果ガス排出の抑制措置及び自治体施策への協力	法第5条	○
グリーン購入法	事業者の責務	環境物品の購入	法第5条	○
使用済み自動車の再資源化等に関する法律	自動車の所有者の責務	使用済み自動車の再資源化等の促進	法第5条	○
浄化槽法	浄化槽の保守点検及び清掃等	保守点検(3回/年分離接触ばっ気方式16人槽) 清掃(1回/年) 定期検査(1回/年)	法第8条～第11条	○
フロン排出抑制法	管理者の義務	簡易点検(1回/3ヶ月)	法第16条	○

2. 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は(過去3年間)ありませんでした。

備考(環境関連法規見直し)

- 1.「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」中「産業廃棄物処理業」「収集運搬業許可・更新」を削除(H26.7.10)
- 2.浄化槽法を追加(H30.6適用条項に法第11条追加)
- 3.「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に廃棄物保管基準を追加(H30.7.11)
- 4.フロン排出抑制法を追加(H30.7.11)
- 5.建設リサイクル法を追加(H30.9.7)
- 6.家電リサイクル法追加(R3.8.9)

X 代表者による全体の評価と見直し・指示

作成 2023年10月25日

1 ・ 見直し 関連情報	項 目		確認 : (必要に応じて評価・コメント記載)	
	1	エコアクション21文書	☒	記録・文書として作成しました。
	2	環境経営目標及び目標達成状況	☒	事務所:購入電力は事務作業の増加による。 建設現場:産廃の木くず・As・Co殻は災害関連工事により増えた。
	3	環境経営計画及び取り組み実施状況	☒	継続して取り組みます。
	4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	☒	記録に記載し、法規制等遵守できました。
	5	外部コミュニケーション・対応記録	☒	事務所・建設現場等の周辺住民からの苦情・要望等はありませんでした。
	6	問題点の是正・予防措置の実施状況	☒	取上げるべき大きな問題点は有りませんでした。
	7	取引先、業界、関係行政機関、その他	☒	建設業関連の資格・研修等は集合会場での試験や研修が実施されて来た。
	8	その他()	☐	

2・代表者による全体評価・見直し指示

2022年度の環境経営活動は、長引く新型コロナの終息が見えない中、職員が家庭・職場における感染予防に努め、業務に支障が出ないように努めて頂いたことに感謝する。環境活動については職員に浸透しており現場等における事故及びトラブル等もなく環境経営方針に沿った取り組みを行うことができた。

環境への負荷の実績では、重機使用燃料の減少により、CO2排出量は目標数値に対して全体で-55%（前年比-42.8%）の減となり過去最小値となった。また、ICTの活用、建設機械替換え時に省エネ・省資源型建設機械等の導入の検討を行っていく。

今後も引き続き職員一丸となって「安全第一・環境第一」を掲げ又、無駄をなくすことを念頭に環境経営計画に沿った取り組みを推進していく。

評価日：2023年10月25日

株式会社 田 崎 組

代表取締役 田 崎 和 美

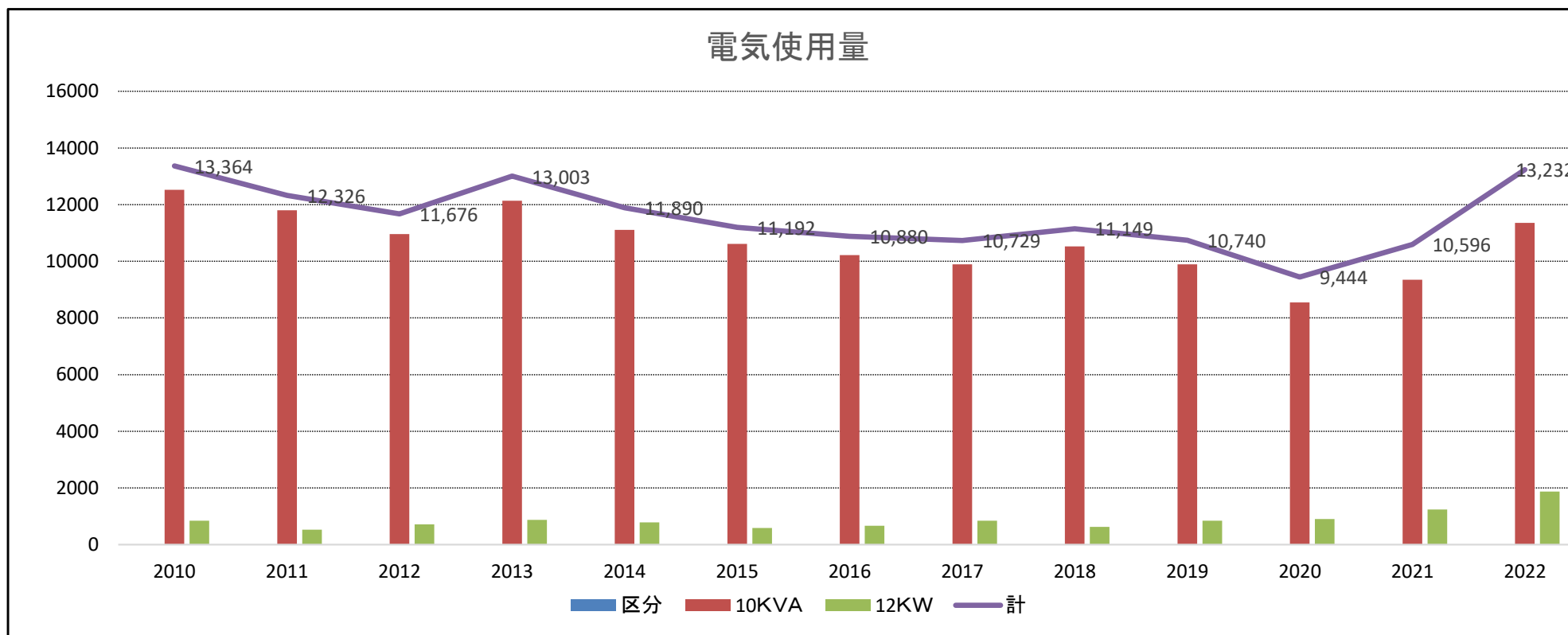
見直し項目		変更の必要性	「有」の場合の指示事項等
1	環境経営方針	有・ ☒ 無	
2	環境経営目標	有・ ☒ 無	
3	環境経営計画	有・ ☒ 無	
4	環境に関する組織(実施体制含め)	有・ ☒ 無	
5	その他のシステム要素	有・ ☒ 無	
6	その他(外部への対応)	有・ ☒ 無	

事務所電気使用量

単位: kwh

年度 区分	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
10KVA	12,523	11,801	10,960	12,132	11,103	10,610	10,214	9,889	10,523	9,892	8,545	9,352	11,358
12KW	841	525	716	871	787	582	666	840	626	848	899	1,244	1,874
計	13,364	12,326	11,676	13,003	11,890	11,192	10,880	10,729	11,149	10,740	9,444	10,596	13,232

※2022.12.12 12KW→4KWへ契約変更

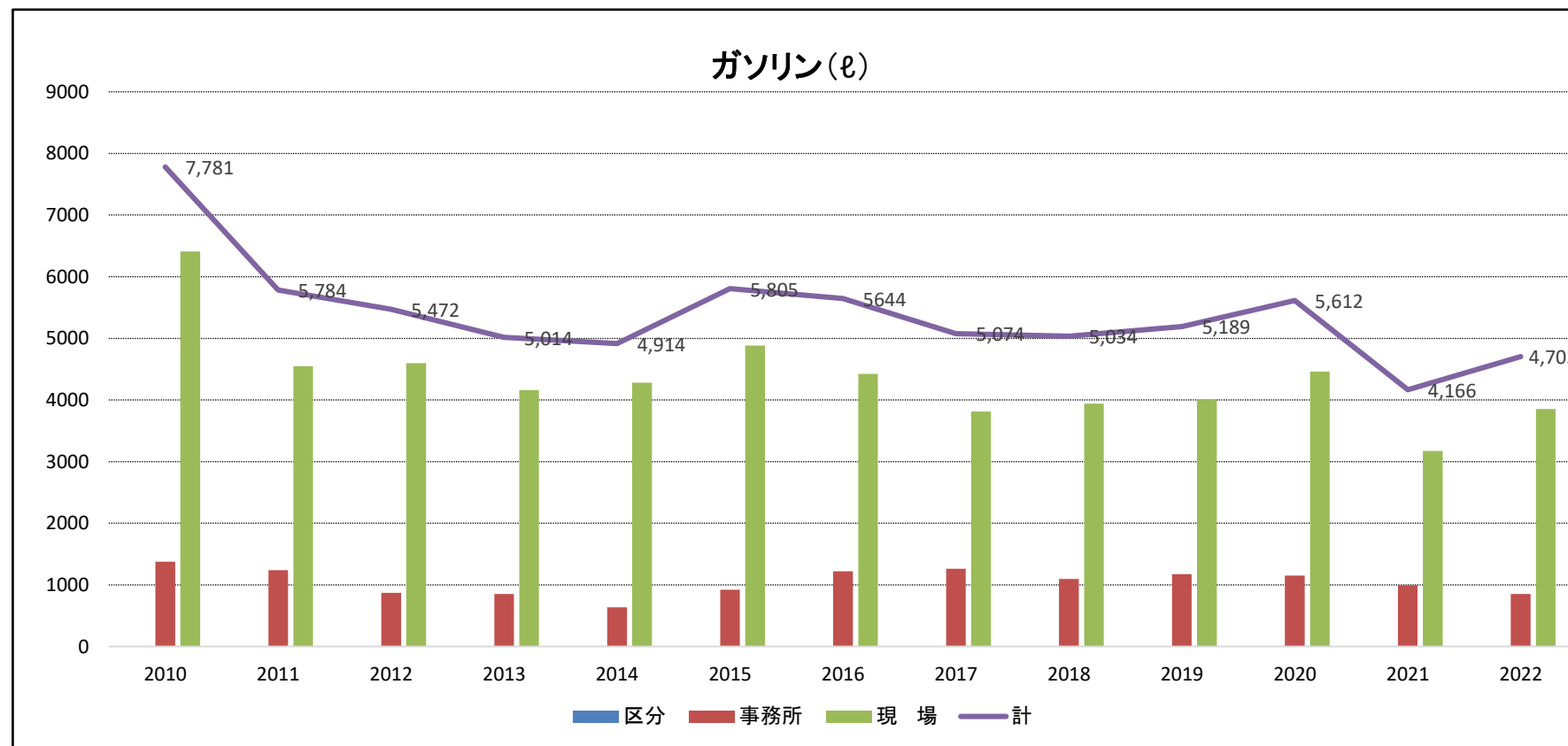


事務所及び現場燃料使用量

ガソリン使用量

単位:ℓ

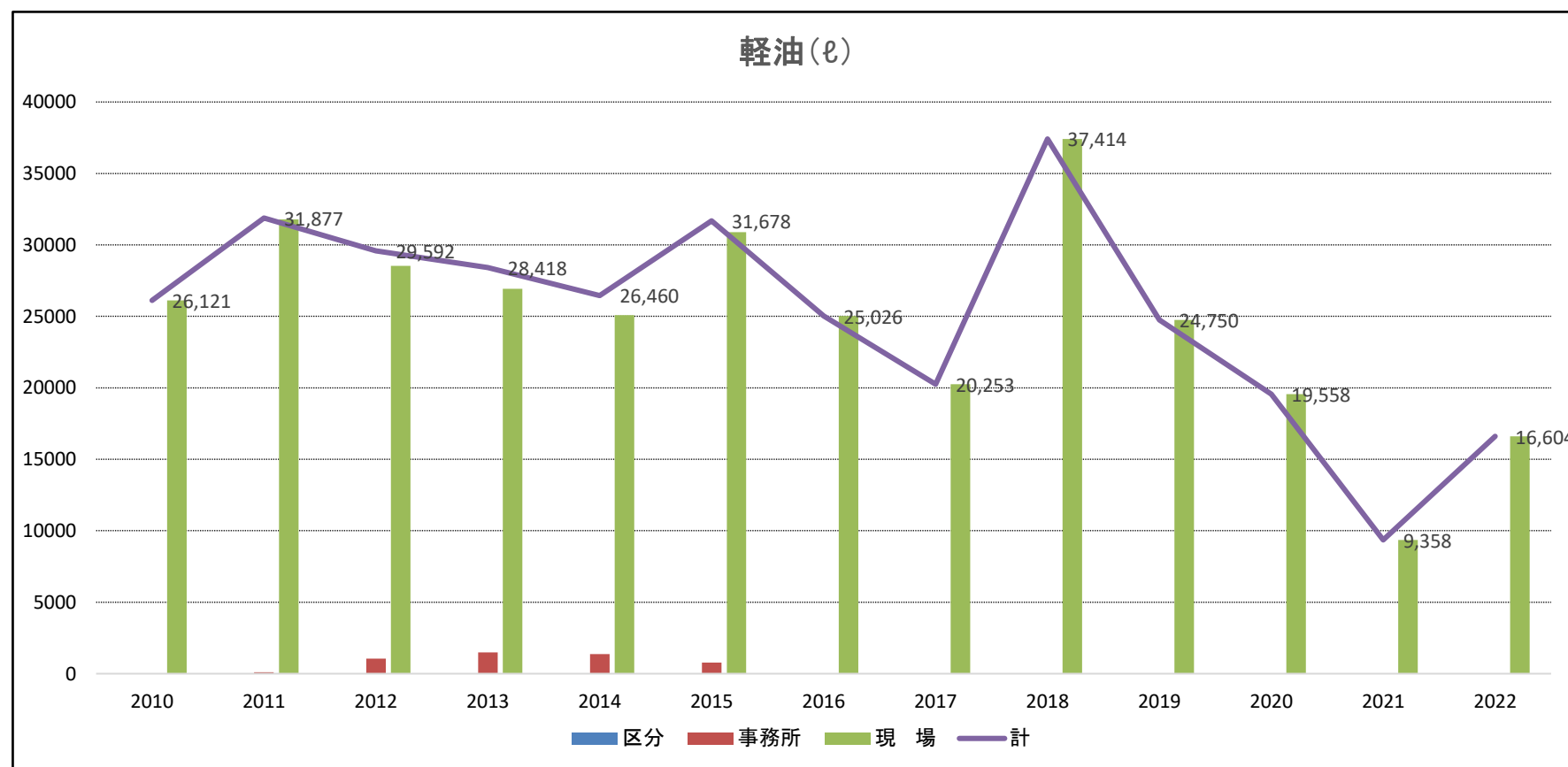
年度 区分	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
事務所	1,374	1,237	872	854	634	922	1,220	1,260	1,094	1,174	1,150	995	852
現 場	6,407	4,547	4,600	4,160	4,280	4,883	4,424	3,814	3,940	4,015	4,462	3,171	3,852
計	7,781	5,784	5,472	5,014	4,914	5,805	5,644	5,074	5,034	5,189	5,612	4,166	4,703



軽油使用量

単位:ℓ

年度 区分	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
事務所	0	95	1,057	1,490	1,367	778	0	0	0	0	0	0	0
現 場	26,121	31,782	28,535	26,928	25,093	30,900	25,026	20,253	37,414	24,750	19,558	9,358	16,604
計	26,121	31,877	29,592	28,418	26,460	31,678	25,026	20,253	37,414	24,750	19,558	9,358	16,604



二酸化炭素排出量 (Kg-CO₂)

CO₂排出量 = 消費量 * 排出係数

電力: 2017年12月21日公表調整後排出係数0.48

ガソリン: 2.32

軽油: 2.58

Kg-CO₂

年度 区分	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
事 務 所	9602	9031	10355	12067	10705	9518	8053	8073	7890	7879	7201	7394	8327
現 場	82259	92547	84292	79125	74669	91051	74831	61101	105669	73170	60812	31501	51775
総 計	91861	101578	94647	91192	85374	100569	82884	69174	113559	81049	68013	38895	60102

